

1 学校教育目標

・かしこい子 ・思いやりのある子 ・たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「子供たちが輝く学校」 ・子供一人一人のよさを認め、励まし、可能性を最大限に引き出す学校 ・教職員が豊かな感性と情熱をもって、学び続ける学校 ・地域・保護者ととともに、地域愛・学校愛をもった子供たちを育てる学校
○児童・生徒像	・自ら問いをもち、見通しをもって、学び続ける子 ・自分や友達のよさを認め合い、励まし合い、高め合える子 ・夢に向かって、しなやかにたくましく挑戦し続ける子
○教師像	・子供一人一人のよさを認め、励まし、可能性を最大限に引き出す教職員 ・授業力向上に熱意を注ぐ教師 ・学校と地域を愛する教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- ・児童は明るく素直である。落ち着いた中にも活気のある姿が多く見られるが、自尊感情が低い傾向がある。
- ・教職員は、若手教員が多い中、よりよい学校を創っていこうと日々一生懸命努力しており、授業力の向上にも力を注いでいる。
- ・保護者・地域も学校に期待を寄せており、教育活動に協力的である。生活習慣や家庭学習などの定着に向けて、さらに連携を深めていく。

【前年度の成果】

重点的な取組事項－1（確かな学力の定着）

- ・学校評価（保護者）の「確かな学力の定着」に関する3項目は99%以上が「よくできている」または「ほぼできている」という結果が出ており、高い評価である。学校生活の中で、「本木5つの約束（学習・生活）」が浸透してきており、児童は落ち着いて学習したり、生活したりしている。
- ・児童の知的好奇心を引き出すために取り組んだ「調べる学習コンクール」は、R1年度68.8%からR2年度約96%と参加率が大きく上昇。

重点的な取組事項－2（思いやりのある、たくましい子の育成）

- ・学校評価（保護者）の「思いやりのある、たくましい子の育成」に関する4項目において、97%以上が「よくできている」または「ほぼできている」という結果が出ており、高い評価である。全学年hyperQUを年2回実施し、一人一人の児童の学級満足度や学級集団として成長度を確認し、個別の支援や学級経営に生かすことができた。また、配慮すべき児童を確認し、教職員全体で情報共有し、支援していく体制が整った。

重点的な取組事項－3（学校・家庭・地域との連携強化）

- ・学校評価（保護者）の「学校・家庭・地域との連携強化」に関する3項目において、94.7%以上が「よくできている」または「ほぼできている」という結果が出ており、高い評価である。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら、学校公開を3回実施することができた。

【前年度の課題】

重点的な取組事項－1（確かな学力の定着）

- ・児童の基礎・基本の学力定着を図る。特に、個々のつまずきを見付け、学び直しの徹底を図る。
- ・教員の「授業力向上」を図るとともに、児童が安心して自分のよさを発揮できる環境を整える。

重点的な取組事項－2（思いやりのある、たくましい子の育成）

- ・年間を通じて児童が体力作りに取り組める体制を整える。
- ・人権教育の視点を意識した教育活動をさらに推進させる。

重点的な取組事項－3（学校・家庭・地域との連携強化）

- ・家庭と連携し、基本的な生活習慣や家庭学習の定着を高めていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン 確かな学力の定着 (学習意欲・基礎基本の力・考える力・授業力)	◎	◎	◎	◎	◎
2	思いやりのある、たくましい子の育成	◎	◎	◎	◎	◎
3	学校・家庭・地域の連携の強化	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン 確かな学力の定着							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
・当該学年での学習内容の確実な定着（区・都・国調査の平均値以上）		区調査2回目達成率80%以上。		通過率(国86.61%算80.84%)平均正答率(国79.2%算76.4%)		・目標達成・学習の定着状況等は、6(1)を参照		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業力向上	全教科	通年	・ICTを活用した授業 ※情報収集・意見交換への活用も推進する ・授業力向上の研修の計画と実施	・ICT活用の授業時数 (週案簿点検) ・教師としての基礎・基本を身に付けさせる内容の研修 (足立スタンダードの徹底)	・年間70h以上 ・年間10回以上	◎	・ICT活用授業時数達成 ・研修回数10回達成	◎

2 継続	本木 タイム	全教科	通年 水土	・MIM・単元テスト・区 学力調査過去問などの 問題	・MIM・単元テスト・区学力 調査過去問などの正答率	・MIM29問/70問正解が 80%以上(12月迄) ・単元テストの平均正答 率85%以上(12月迄) ・区学力テスト達成率 80%以上(2回目)	○	・MIM49% ・単元テスト 85%達成 ・区学力テス ト目標達成	○
3 継続	自力解決 タイム	全教科	通年 月火金	・宿題の課題を終えてい ない児童の指導 ・担任が指導・支援が必 要と考える児童の指導	・宿題提出率 ・MIM・単元テスト・区・都・ 国学力テストの正答率など ※校内実施の都・国学力テス トの比較	・宿題提出90%以上 ・MIM29問/70問正解が 80%以上(12月迄) ・単元テストの平均正答 率85%以上	○	・宿題提出 率・単元テス ト、目標達成 ・国学力テス トは、全国平 均を5.8%以 上、上回る	○
4 継続	読書 調べる 学習	全教科	通年	・年間で読んだ本の冊数 「読書通帳」に記載 ・「調べる学習コンクール」 参加	・「読書通帳」に記載された本 の冊数・ページ数の合計 ・「調べる学習コンクール」への 参加人数	・学年の目標を達成した児 童の人数50%以上 ・「調べる学習コンクール」への 参加率95%以上	◎	・目標人数ほ ぼ達成(約 50%) ・調べる学習 参加率達成	◎

重点的な取組事項－2		思いやりのある、たくましい子の育成									
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題		達成度			
<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の向上 柔軟性・持久力・投力の向上 		<ul style="list-style-type: none"> hyperQU(全学年実施)の要支援群な どの児童や学級満足度尺度の改善 長座前屈・シャトルラン・投球において、 1回目と2回目以降の比較、R2年度 とR3年度の比較により改善 		<ul style="list-style-type: none"> R2年度と比較し、満足群の児 童が上昇(3.02→3.18) R2年度と比較し、長座前屈・シャ トルラン・投球すべてにおいて改善。 		<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、自尊 感情が明らかに向上。 上位群と下位群の児 童の二極化 		◎			
B 目標実現に向けた取組み											
項目		達成基準		具体的な方策		実施結果		コメント・課題			
人権教育の取組と 自己肯定感の向上		<ul style="list-style-type: none"> 研究授業7本 hyper-QU 2回実施。 前期と比較し、要支援群 等の児童等の状況改善 		<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重教育推進校発表会 に向けて、研究授業の充実 週1回の教育相談委員会に おいて、hyper-QUの要支援群 等の児童などの状況を情報共 有し、対応などを周知する。 		<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、研究授業7本実施 年間を通じて、hyper-QUの要支 援群等の児童の状況を週1回の教 育相談委員会で確認し、全体での 共通理解に繋げた。 		<ul style="list-style-type: none"> 研究の実践が児童の 姿に反映された。 hyper-QUの分析が、 児童の指導や支援に活 かされた。 		◎	

心の教育の重視、 規律順守の徹底	・アンケート実施と状況 改善（8割以上）	・本木小学校の学習・生活の 5つの約束の定期的なアンケ ート実施（年3回予定）	・R2年度と比較し、10項目中 8項目は上昇、1項目は同値。	・学習への積極的な態 度、学校生活での安全 に関する態度が特に改 善された。	◎
健康・体力向上	・都（R1）や本校の体力 調査（R2）の記録の比較 平均値の上昇 ・研修3回以上	・「体力アップ記録カード」を 活用し、課題確認と記録更新 のための手立ての実施 ・課題（柔軟性・持久力・投力） 改善のための研修	・R2年度と比較し、ほぼ全学年、 課題種目において、記録の上昇。 ・研修3回以上達成	・体育の学習の中で、 課題（柔軟性・持久力・ 投力）改善のための運 動を必ず取り入れるよ うになったことの効果 が出てきている。	◎

重点的な取組事項－3		学校・家庭・地域との連携の強化			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・学校情報の積極的な発信		・学校評価における満足度80%以上	・学校評価における満足度86% 以上。	「分からない・無回答」 と回答した方々（9%） への対応	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
積極的な情報発信	・HPの「学校生活」の 内容・表現の工夫 ・週2回以上掲載 ・「学年のコーナー」の 内容・表現の工夫	・HPの「学校生活」の内容・ 掲載回数の充実 ・学校便りの「学年のコー ナー」の内容の充実	・HPの「学校生活」の内容・掲載 は、週に平均2回達成。全ての学 年を掲載するよう計画・実施。 ・「学年コーナー」に子供たちの様 子よりも主に連絡事項を載せるこ とが多かった。	・HPの「学校生活」の 掲載回数を増やし、HP の更なる活用。 ・学校だよりを一新し、 「学年コーナー」の掲 載量を増やす。	○
地域と連携した取組	・防災教育・防災訓練の 計画と実施 ・避難所運営会議の実施	・防災教育・防災訓練の実施 ・防災設備の確認と改善	「新型コロナウイルス感染拡大防 止により中止」 ・教職員による、防災設備の確認 は行った。	・防災設備について、 地域の方々と一緒に確 認する時間をもった。 今後も定期的に計画。	△
適正な学校評価に基 づいた、よりよい学 校づくりの推進	・学校評価の保護者・地 域の満足度80%以上	・授業診断・学校評価等を基 に、自己評価書の作成及び学 校関係者評価の実施	・学校評価の保護者・地域の満足 度が86%以上。感染対策をしっ かりと行った上での土曜公開授業 実施は、子供の様子を知っていた くより機会と捉えていただいた。	・安全を重視しながら も、子供たちの活動し ている姿をできるだけ 多くの方々に見ていた く方向性は継続。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題】国語：漢字・語句・ローマ字の読み書き、辞書の使い方などの学力の定着が不十分である。

文学的文章や説明的文章における内容を読み取る学力の定着が不十分である。

順序立てて自分の考えを書き表す学力の定着が不十分である。

算数：時刻、長さ・重さ、図形、数量の関係等の単元学習における学力の定着が不十分である。

文章問題に記述式で答える等、文章問題の内容を理解したり、根拠を示して説明したりする学力の定着が不十分である。

全体：学力の定着において、学級間・学年間の差がかなりある。

【対策】国語：毎日の授業の中で、語彙力を伸ばすような学習を取り入れる等して、児童が言葉に興味をもてるようにする。

読書活動の推進をさらに進めていく。研究授業の中で、語彙力を伸ばす手立てを取り入れていく。

MIMの指導においては、専科の教員等が学級に支援に入り、個別の指導を支援する。家庭での取組を強化する。

自力解決タイムや家庭学習の時間を使って読解問題に取り組みさせるなどして、読解問題に取り組む時間を増やす。

算数：特に課題となっている単元について、具体物を使い、児童が実際に確認し理解しやすいように工夫する。

自力解決タイムや家庭学習の時間を使って、難度を段階的に考えた計算問題を取り組みさせる。

全体：教科担任制をさらに取り入れ、各々の教員が専門分野を生かした授業を行い、互いの授業力を向上させる。

年度初めは特に低学年において、年度当初は2クラス合同授業を行わせ、学習規律や授業の流れを定着させる。

授業、本木タイム。自力解決タイム等で、個々のつまづきを分析し、AIドリルを活用し、課題を乗り越えさせる。

重点的な取組事項－1

・学校評価の「確かな学力の定着」に関する3項目は、児童87%以上、保護者86%以上が「よくできている」または「ほぼできている」という結果が出ており、一定の評価は得られた。3年目の取組となる「本木5つの約束(学習・生活)」については、毎日の生活の中で浸透され、学校全体が落ち着いて学習を行っている。今後も、定期的に確認し、安全で気持ちのよい学校生活を送れるようにする。

・個々の児童のつまづきを乗り越えさせるための時間として、R2年度以上に、自力解決タイムや本木タイムの時間が大いに活用された。

・読書通帳を活用した読書活動の取組が効果を発揮し、児童の読書量も増加。(8月)R2:16.2冊→R3:24.1冊 (1月)R2:51冊→R3:63冊

また、今年度、本校の児童が東京都読書感想文コンクールの特選・都代表として選ばれた。

・「調べる学習コンクール」への参加率は、R1:68.8%→R2:約96%→R3:100% 毎年、教員の研修を実施し、学校全体で取り組むことができた。

重点的な取組事項－2

・人権尊重教育推進校として、研究発表を実施。R2年度と比較し、児童の自尊感情を客観的に表す数値の高まりが見られた。R2:3.02→R3:3.18
コロナ禍の中、研究授業を(7本)行うことができた。

・全学年hyper-QUを年に2回実施。SCによる5.6年生全児童面談の実施。週1回の教育相談委員会(管理職・養護教諭・専科・特別支援教室専門員等)実施。学校全体で、配慮すべき児童を確認し、情報共有し、見守り指導していく体制を継続し、児童の心の安定を図ってきた。

・本校の児童の課題である、長座体前屈(柔軟性)、ソフトボール投げ(投力)、シャトルラン(持久力)の記録(平均)が全体的にほぼ上昇。中でも長座体前屈は男女共に全学年で記録が伸びた。3つの中で、特に持久力に課題がある。シャトルラン等を通して、持久力をあげる取組を多く取り入れる。

重点的な取組事項－3

・学校評価「学校・家庭・地域の連携の強化」における情報発信の満足度は90%であった。コロナ禍が続く中、必要な情報を伝えたり、HPからの情報、授業参観(3回)を行ったりする等、可能な限り児童の様子を保護者に伝えられるようにしてきたことへの評価と受けとめている。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

日頃より本校の教育活動にご理解ご協力いただきまして、感謝しております。本校は、特に授業の中で児童一人一人が自分のよさに気づき、自らの可能性を広げ伸ばし、輝くことができるよう尽力して参ります。これからも本校の教育活動にご理解とご協力をいただきますよう、お願いいたします。